

H24 JICA 集団研修 (JICA Group Training Course 2012)

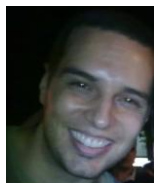
「地域情報発信能力強化」コース

(Capacity Building for Developing Communication and Information Environment in Rural Community)

平成 24 年 7 月 30 日から 9 月 7 日までの約 6 週間、(一財)日本 ITU 協会は、(独)国際協力機構(JICA)からの委託を受けて集団研修を実施した。研修内容は、自国のルーラル地域の情報格差是正計画を作成することができる人材を育成することを目的としたものであり、効果的・効率的なルーラル通信網整備および地域情報発信のための理論的、実践的な研修を実施した。

(一財)日本 ITU 協会は、JICA からの委託で、平成 2 年度から平成 11 年度までは、「ルーラル通信技術コース」(フェーズ I) (“Rural telecom engineering course” (phase I))、平成 12 年度から平成 16 年度までは、「ルーラル通信計画」(フェーズ II) (“Rural telecommunication planning course” (phase II))、平成 17 年度から平成 21 年度までは、「村落情報基盤整備手法」(フェーズ III) ”Networking of Rural Community Information Infrastructure course” (phase III)を実施してきた。これらの 3 つの研修コースを通して、20 年間で、延べ 226 名 (個別研修員を含む) の研修員を受け入れてきた。

本研修は、上記研修を引き継ぐ形で、2010 年度から実施されてきたもので、本年度研修は、フェーズ IV(3 年間)の 3 年目として実施された。研修員は、ブラジル、ネパール、スリランカ、タイの 4 カ国から 6 名が参加した。



Mr. Paul
Brazil



Mr. Antonio
Brazil



Mr. Yadav
Nepal



Mr. Prem
(Sri Lanka)



Ms. Hiranya
Sri Lanka



Ms. Hui
Thailand

講義科目は、まず、日本の通信事情(Outline of the Telecommunications in Japan)で、日本の通信政策の現状を理解してもらい、ルーラルコミュニティのための情報通信開発戦略(ICT Development Strategy: Global Challenge for Rural Community)、ルーラル通信の役割と開発 (Development of Rural Telecommunications)、ルーラル通信概論(Fundamentals of Rural Telecommunication Network)、情報通信インフラ開発のための資金調達策(Considerations to set Universal Service Obligation System)というルーラル特有の科目で、ルーラル地域の ICT 開発理論の概要を習得してもらった。さらに、光ケーブル方式(Fundamentals of Optical Networks)や W-CDMA および LTE(RADIO ACCESS NETWORK DESIGN W-CDMA & LTE)等のネットワーク設計に必要な主要技術科目を網羅した。また、ルーラル通信網整備の実

例として、村落地域での情報化に必要な ICT 技術と仕組みづくり (Actively promote use of ICT utilization in rural area)の科目を用意した。それらの中で、東日本大震災直後からのモバイル通信サービスの復旧状況についての講義も実施した。

設計したネットワークの分析科目としてフィージビリティスタディーに必要な調査項目の説明(Study items and process of Feasibility Study)およびPCM手法(Outline of Project Cycle Management Technique)の講義を実施した。

情報関連科目として、地域情報発信のための IP ネットワーク構築のための科目として、インターネット構築基礎(Building an IP Network)、FTTH 概要(Fiber-To-The-Home System)、宅内ネットワークについて(Residential ICT)、Set Top Box 概論(Introduction to the Set-Top Box)、インターネットサーバー概要(Internet Servers)の科目を用意した。

ネットワーク・プランニング演習(Drill in Network Planning)においては、研修員は習得した技術を基に、6つのルーラルモデルエリアについての事例研究を行った。また各エリアに最も適したルーラル通信網を設計・立案し、最終日にその結果を発表、各科目の講師を交えて検討、討議を行った。この演習は、本コースで習得した技術の集大成であり、帰国後もこのシステム設計演習で学んだ技術、知識が自国での計画、立案に適用できるため、研修員に好評であった。



すさみ町のインターネット装置



すさみ町のインターネット装置



すさみ町

ルーラル地域にネットワークを実際に構築し、運用している事例として和歌山県すさみ町を視察した。同町では、IRU(Indefeasible Right of User)という制度を導入してルーラル地域の情報化を実現している。IRU制度というのは、自治体がネットワークを構築し、通信事業者が、そのネットワークの運営を行うという、いわゆる公設民営の方式である。ルーラル地域で、活用できる電源として注目を集めているソーラシステムの視察として、三洋電機エナジー社 二色の浜工場を訪れた。さらに、情報通信の最新技術の視察として、NTT 関西 R&D オープンルームの視察を行った。各視察とも、講義の内容を実際に体験できたばかりか、通信の新技术に触れることができた研修員からの好評も得た。



三洋電機エナジー社視察



山梨県中央市視察

研修の最終段階で、インテリム・レポート(Interim Report)を作成し、中間報告を行った。インテリム・レポートは、ネットワーク・プランニングのみならず、プロジェクトマネージング手法(PDM: Program Development Matrix)を駆使し、設計したネットワークに財務(採算性を含む)、人材、調達、環境、維持管理、将来計画などを適用して、最終的にインテリム・レポートとして、まとめあげるもので、最終日の各研修員の中間報告では、活発な質疑応答が行われた。本インテリム・レポートは、研修修了2ヶ月以内に最終報告として、JICAに提出される。



インテリムレポート発表



閉講式

この報告は、研修員が帰国後、上司と相談の上、個人ではなく、組織として提出されることとなっている。提出された報告書は、JICA内で検討され、実現の可能性の高いものがあつた場合には、JICA現地事務所等を通して、フォローアップ等、さらに、実現に向けた活動が行われる。

なお、本研修コース期間中、研修員へはパソコンを貸与し、テキストはCD-ROM版のみとし電子化を図っている。

本研修コースは、研修員からは、概ね良い評価を得ているが、一般財団法人 日本 ITU 協会は、研修終了時に研修員より講義内容、テキスト、施設見学および研修旅行に対する評価、意見ならびに要望等を聴取し、これらの評価結果を分析、検討し、コース実施上の問題点を明らかにし、次年度以降の新規研修の内容に反映させる考えである。

以 上